

就労継続支援 A 型 基本報酬に関する届出書
及び自己評価結果等の公表に係る届出書

1 事業所情報

事業所番号	4017702152									
事業所名称	A P A 徳力									
事業の種類別	●	就労継続支援 A 型	指定年月日	令和 4	年	4	月	1	日	

2 公表状況

公表の有無		有		無		公表年月日	令和 5	年	4	月	15	日
公表方法 (該当するものに●)		ホームページに掲載 (アドレスを記載してください)										
		URL	https://yorocovi.biz/									
		その他 (具体的な方法を記載してください)										
		具体的な方法										

3 基本報酬算定区分

(Ⅰ) 労働時間	40	点
(Ⅱ) 生産活動	-10	点
(Ⅲ) 多様な働き方	15	点
(Ⅳ) 支援力向上のための取組	15	点
(Ⅴ) 地域連携活動	10	点
(Ⅵ) 経営改善計画	0	点
(Ⅶ) 利用者の知識・能力向上	10	点

合計

80

点

／200点

備考 ・ パソコン等の不具合等で、やむを得ず、一時的にインターネット以外の方法により公表している場合は、会報等を添付した上で、会報等の配布先、公表先を記載の上、現に公表されている箇所の写真を添付し提出してください。また、早急にインターネット上での公表が行われなかった場合、減算となる可能性があります。

- ・ 自己評価結果等の公表にあたっては、別添 4 2－1 から 4 2－4 までの各様式を使用してください。
- ・ 地域貢献活動の報告書の公表については、別添 4 2－3 の様式を使用してください。
- ・ 利用者の知識・能力向上に係る実施状況の報告書については別添 4 2－4 を使用してください。

就労継続支援Ａ型事業所におけるスコア表（全体）

※ 緑色のセルのみ入力してください

事業所名	ＡＰＡ 徳力
住 所	福岡県北九州市小倉南区徳力六丁目１番１－１０１、１０３号
電話番号	093-967-9137

事業所番号	4017702152
管理者名	溝部和真
対象年度	令和５年度

（Ⅰ）労働時間

①1日の平均労働時間が7時間以上		40
②1日の平均労働時間が6時間以上7時間未満		
③1日の平均労働時間が5時間以上6時間未満		
④1日の平均労働時間が4時間30分以上5時間未満		
⑤1日の平均労働時間が4時間以上4時間30分未満	○	
⑥1日の平均労働時間が3時間以上4時間未満		
⑦1日の平均労働時間が2時間以上3時間未満		
⑧1日の平均労働時間が2時間未満		
①90点 ②80点 ③65点 ④55点 ⑤40点 ⑥30点 ⑦20点 ⑧5点		点

（Ⅱ）生産活動

①過去3年の生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賞金の総額以上		-10
②過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賞金の総額以上		
③過去3年の生産活動収支のうち前年度における生産活動収支のみが前年度に利用者に支払う賞金の総額以上		
④過去3年の生産活動収支のうち前々年度における生産活動収支のみが前々年度に利用者に支払う賞金の総額以上		
⑤過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賞金の総額未満	○	
⑥過去3年の生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賞金の総額未満		
①60点 ②50点 ③40点 ④20点 ⑤-10点 ⑥-20点		点

（Ⅲ）多様な働き方（※）

①免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度		15
就業規則等で定めている	○	
②利用者を職員として登用する制度		
就業規則等で定めている	○	
③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律		
就業規則等で定めている		
④フレックスタイム制に係る労働条件		
就業規則等で定めている		
⑤短時間勤務に係る労働条件		
就業規則等で定めている	○	
⑥時差出勤制度に係る労働条件		
就業規則等で定めている	○	
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度		
就業規則等で定めている	○	
⑧傷病休暇等の取得に関する事項		
就業規則等で定めている		
小計（注1）	5	点

（※）8項目の合計点に応じた点数

（注1）5以上:15点、4～3:5点、2点以下:0点

（Ⅳ）支援力向上（※）

①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会		15
参加した職員が1人以上参加している	○	
②研修、学会等又は学会誌等において発表		
1回以上の場合		
③視察・実習の実施又は受け入れ		
いずれか一方のみの取組を行っている	○	
④販路拡大の商談会等への参加		
1回以上の場合	○	
⑤職員の人事評価制度		
人事評価結果に基づき定期的に昇給を判定する制度を設け、全ての職員に周知している	○	
⑥ピアサポーターの配置		
ピアサポーターを職員として配置している	○	
⑦第三者評価		
過去3年以内の福祉サービス第三者評価を受審しており、結果を公表している。		
⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等		
都道府県知事が適当と認める国際標準化規格が定めた規格その他これに準ずるものの認証を受けている		
小計（注2）	5	点

（※）8項目の合計点に応じた点数

（注2）5以上:15点、4～3:5点、2点以下:0点

（Ⅴ）地域連携活動

地域の事業者と連携した付加価値の高い商品開発、企業や官公庁等での生産活動等地域社会と連携した活動を行い、その結果をインターネット等により公表している	○	10
1事例以上ある場合:10点		

（Ⅵ）経営改善計画

経営改善計画の提出を求められていない。または、経営改善計画の提出を求められているが、指定された期日までに提出している。	○	0
期限内に提出していない場合:-50点		

（Ⅶ）利用者の知識・能力向上

前年度において、就労継続支援Ａ型事業所等が利用者の知識及び能力の向上に向けた支援を行い、当該支援の具体的な内容を記載した報告書を作成し、インターネットの利用その他の方法により公表している。	○	10
1事例以上ある場合:10点		

項目	点数						
労働時間	5点	20点	30点	40点	55点	65点	80点
生産活動	-20点	-10点	20点	40点	50点	60点	
多様な働き方	0点	5点	15点				
支援力向上	0点	5点	15点				
地域連携活動	0点	10点					
経営改善計画	0点	-50点					
利用者の知識・能力向上	0点	10点					

合計

80

点 / 200点

就労継続支援A型事業所におけるスコア表（実績Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ）

(I) 労働時間

前年度（	年度）					
雇用契約を締結していた全ての利用者における延べ労働時間	22,108	時間	雇用契約を締結していた延べ利用者数	5,391	人	利用者の1日の平均労働時間数
						4
						時間

(II) 生産活動

会計期間（ 月～ 月）							
前々々年度（ 年度）							
生産活動収入から経費を除いた額		円	利用者に支払った賞金総額		円	収支	
前々年度（ 年度）							
生産活動収入から経費を除いた額	4,200,040	円	利用者に支払った賞金総額	17,819,996	円	収支	▲ 13,619,956
前年度（ 年度）							
生産活動収入から経費を除いた額	4,323,467	円	利用者に支払った賞金総額	24,184,546	円	収支	▲ 19,861,079

(Ⅲ) 多様な働き方

前年度（ 年度）における取組（全体表「（Ⅲ）多様な働き方」の各項目において「就業規則等で定めている」と選択した場合に記載）

①免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度 ◎免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度を定めている ☒	②利用者を職員として登用する制度 ◎利用者を職員として登用する制度を定めている ☒	③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律 在宅勤務に係る労働条件及び服務規律に関する制度を定めている ☐
④フレックスタイム制に係る労働条件 ◎フレックスタイム制に係る労働条件を定めている ☐	⑤短時間勤務に係る労働条件 ◎短時間勤務に係る労働条件を定めている ☒	⑥時差出勤制度に係る労働条件 ◎時差出勤制度に係る労働条件を定めている ☒
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度 ◎有給休暇の時間単位取得または、計画的付与制度を定めている ☒	⑧傷病休暇等の取得に関する事項 ◎傷病休暇等の取得に関する事項を定めている ☐	

(IV) 支援力向上

前年度（ 年度）における取組（全体表「（Ⅳ）支援力向上」の各項目に取組あり選択とした場合に記載）

①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会 ◎研修計画を策定している ☒ ◎外部研修、もしくは内部研修を 1回以上実施している。 ☒ ※研修名 第4回合同職員研修会 研修講師 伊東良輔 実施日・受講者数 12月 23日 5人	②研修、学会等又は学会誌等において発表 ◎研修、学会等又は学会誌等において 1回以上発表している ☐ ※研修、学会等名 実施日 月 日 ※学会誌等名 掲載日 月 日 発表テーマ	③視察・実習の実施又は受け入れ ◎先進的事業者の視察・実習の実施している もしくは、他の事業所の視察・実習を受け入れている ☒ ※先進的事業者名 実施日/参加者数 月 日 人 ※他の事業所名 azul黒崎 実施日/参加者数 8月 5日 4人
④販路拡大の商談会等への参加 ◎販路拡大の商談会や展示会等へ1回以上 参加している。 ☒ ※商談会等名 守成クラブ 主催者名 株式会社日本商工振興会 日時 1月 4日 内容	⑤職員の人事評価制度 ◎職員の人事評価制度を整備している ☒ ◎当該人事評価制度を周知している ☒ 人事評価制度の制定日 平成34年4月1日 人事評価制度の対象職員数 8名 うち昇給・昇格を行った者 7名 当該人事評価制度の周知方法 就業規則	⑥ピアサポーターの配置 ◎ピアサポーターを配置している ☒ ◎当該ピアサポーターは「障害者ピアサポーター研修」 を受講している ☒ ※配置期間 4月 1日～ 3月 31日 就業時間 8:30～17:30 職務内容
⑦第三者評価 ◎前年度末日から過去3年以内に 福祉サービス第三者評価を受けている ☐ ※評価を受けた日 月 日 第三者評価機関	⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等 ◎ISOが制定したマネジメント 規格等の認証等を受けている ☐ ※認証を受けた日 月 日 規格等の内容	

(VI) 經營改善計畫	
-------------	--

◎指定権者である都道府県（指定都市・中核市）へ、
経営改善計画書へ提出した。 ☒

※受理日 年 月 日

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	A P A 徳力	事業所番号	4017702152
住 所	北九州市小倉南区徳力六丁目 1 番 1 号	管理者名	溝部和真
電話番号	093-967-9137	対象年度	令和5年度

地域連携活動の概要	
<活動内容> - 活動場所 マエダ産業小倉南 北九州市小倉南区徳力一丁目 1 5 番 2 号 - 実施日程 令和6年3月1日～3月31日 - 実施した生産活動・施設外就労の概要 自動車部品の組立を行う地元企業にて施設外就労 - 利用者数 5名	<活動の様子> 活動の様子の写真  平成36年3月6日 自動車のワイヤーハーネスの組立
<目的> - 地域連携活動のねらい 利用者の自立を地域で支える - 地域にとってのメリット 製造コストの削減、労働力不足の解消 - 対象者にとってのメリット 地元企業への一般就労の可能性	成果物の写真  製品番号 J30S 共通パーツ  製品番号 W6920L CP2 CXシリーズ
<成果> - 地元の企業様に喜んで頂き、利用者にも自信がついた - 地元での就職の可能性、地域共生社会の実現 - 課題点 より高度な組立技術の習得、共有	

連携先の企業等の意見または評価			
・連携した結果に対する意見または評価 精神状態が不安定のため欠勤せざるを得ず、作業はできて評価の対象とならない利用者もあり残念。 作業の習熟程度（完成度・時間）に個人差はあれど、組立作業は合格ラインまで達成しており、時間が解決すると思われる。 より良い製品の加工に努め、弊社での一般就労を目指していく。 ・今後の連携強化に向けた課題 メーカーの理解を得ることが作業単価の向上にも繋がると思われる、営業面でも協力して行っていく。 利用者毎の作業適性の確認を事前に行い、実践的な合理的配慮を実施する。 作業工程の簡略化、写真付きの作業指示書の作成。			
連携先企業名	合同会社マエダ産業	担当者名	春本輝政

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	A P A 徳力	事業所番号	4017702152
住 所	北九州市小倉南区徳力六丁目 1 番 1 号	管理者名	溝部和真
電話番号	093-967-9137	対象年度	令和5年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要	
<活動内容> ・活動場所 ガレージ 4 5 8 北九州市小倉南区長尾4-31-7 ・実施日程 平成35年9月9日 ・実施した利用者の知識・能力向上に係る実施の概要 自動車の整備・修理技術の見学 ・利用者数 1名	<活動の様子> 車両修理の見学 下回り点検  オイル交換の実践 オイル量の確認  ワイヤーハーネスの使用部位を確認  
<目的> ・利用者の知識・能力向上に係る実施のねらい 組み立てたハーネスが自動車の部品として使用されている様子を知ることで、社会における自身の価値や意義を認知し自己肯定感を高め、さらなる就労への意欲の創出を図る。 ・利用者にとってのメリット 自分に自信を持つことで、積極的な社会参加が可能となる。	
<成果> ・実施した結果 整備士の資格取得に興味を持った ・得られた成果 スキルアップへの意欲、自尊心の芽生えと作業に対する積極性の発揮 ・課題点 誤学習のない素直さが求められる	

連携先の企業や事業所等の意見または評価	
・連携した結果に対する意見または評価 利用者の好奇心や知識欲に上手くアプローチすることで、より効果的な就労支援が可能となった。向上心を持ち就労することで、複雑な作業も正確にこなす技量の習熟への時短に繋がった。 ・今後の連携強化に向けた課題 利用者の更なる能力向上の為に、その障害特性に応じた個別での幅広い対応が必要である。	
連携先企業（担当者）	ガレージ 4 5 8

利用者からの意見・評価
・参加した利用者からの意見・評価 自分たちで組み立てているワイヤーハーネスが、実際に車両で使用されている様子が確認でき、作業の意義を実感することができた。 整備士の方から国家資格についての説明があり、整備士は不足しているとも聞いたので、就労のチャンスだと思った。 体力的に楽で簡単な業務ではないので、体調管理など就労には課題もあるが、整備士の資格取得条件など参考になった。